

H30年度自己評価表

青翔開智中学校・高等学校

建学の精神からなる本校の中長期目標	今年度の重点目標
<p>「探究」複雑な課題を高い創造力によって解決する取り組みを「探究」と定義し「探究できる人材」の育成を推進する。さらに文科省SSH校(指定期間H30～H35)として探究カリキュラムの開発を進めるとともに本校の探究活動を県内外へ発信・普及させる。</p> <p>「共成」共に成長する力を育成する教育をグローバル・ダイバーシティ教育と位置づける。グローバル・ダイバーシティ教育では多様性の理解を進め、英語を道具として場所や相手を選ばずに成長できる人材の育成を進める。</p> <p>「飛躍」自分とは何かを問い続け、好きなこと・得意なこと・社会が求めること・価値観を追求することにより、進路をデザインし実現する。</p> <p>さらに、探究活動を下支えするICT及び図書環境を充実させ探究を後押しするとともに、生徒と教職員が主役となり、保護者からの協力が絶えない学校創りを目指す。</p>	<p>1、6カ年の「探究」授業のカリキュラム化と通常授業における図書館利用学習の推進。</p> <p>2、多様性理解に向けた行事の実行と英語力向上のための授業開発。</p> <p>3、海外大学への興味関心の向上と理解促進。偏差値に偏らない進路選択の実現。</p> <p>4、上記を円滑かつ効果的に推進するためICTおよび図書環境の充実と支援の体系化。</p> <p>5、生徒と教職員のやりたいことを重視した学校運営。保護者の行事参加率の一層の向上。</p>

年度当初				評価結果(年度末)		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価基準	評価	自己評価および次年度の主な課題	
重点目標1に対応	「探究」 探究学習・SSH	A. 6カ年「探究」カリキュラムの開発 B. 探究の成果向上のためのスキルを身につける	A. デザイン思考をベースとした6カ年の「探究」カリキュラムを企画し実行する。 B. 探究の成果向上のためのスキルを身につける授業を図書館利用学習と位置づけ、各通常授業で展開する。	A. 各学年の探究カリキュラムの実施度と生徒アンケートによる探究授業満足度を評価基準とする。 B. 各教員の図書館利用学習の実施率と生徒の学習達成度を評価基準とする。	A. 評価 A B. 評価 B	A. 探究カリキュラムは中1から高2で実施。高3はR02年度の実施に向け準備を進める。5点満点の評価アンケートの結果、中学探究授業満足度(4.40)、高校探究授業満足度(3.97)となり総合的に判断して評価Aとした。 B. 常勤教員20名のうち、実施した教員は13名。生徒の学習達成度についてはルーブリックを活用し生徒の自己評価に役立てた。次年度は実施教員数の増加と、ルーブリックによる教員からの評価実施を目標とする。
重点目標2に対応	「共成」 グローバル・ダイバーシティ教育	A. 英語や多様性に対する苦手意識を取り払いグローバルに向かう姿勢を整える。 B. 英語4技能の育成を推進し英語をツールとして活用できる人材を育成する。 C. 多様性とは何かを自分の考えで意見できる人材を育成する。	A. 英語イベントの実施や海外留学生の受け入れを積極的におこない、海外と生徒の接点を多くもつ機会を作る。 B. 外部英語試験を推奨し、試験合格に向けて具体的な対策講座を学内で開講する。 C. 各学年にて多様性の理解を促進する行事を企画し実行する。	A. 行事への生徒の年間参加率と満足度を評価基準とする。 B. 各学年で目標級を決め、その合格率を評価基準とする。 C. 各学年にて行事の実施状況を評価基準とする。	A. 評価 B B. 評価 B C. 評価 B	A. 中1参加率(56%)満足度(4.53)、中2参加率(33%)満足度(4.53)、中3参加率(100%)満足度(4.22)。高1参加率(100%)満足度(4.10)、高2参加率(64%)満足度(4.45)、高3参加率(0%)満足度(-)。総合的に判断し評価Bとした。 B. 中1英検4級以上(92%)、中2英検3級以上(76%)、中3英検準2級以上(57%)。高1CEFR A2以上(76%)、高2CEFR B1以上(31%)、高3CEFR B1以上(27%)。総合的に判断し評価Bとした。 C. 中1 3回、中2 4回、中3 4回。高1 1回、高2 0回、高3 0回。総合的に判断し評価Bとした。次年度は高校の実施回数が増えるよう対策を行う。
重点目標3に対応	「飛躍」 キャリア教育	A. やりたいことから目標を設定し実行できる人材の育成。 B. 国内大学だけでなく海外大学進学への興味関心を向上させる C. 探究活動やグローバル教育をとおし、将来のビジョンを明確にした進路を考える生徒を育成する。 D. 選択した進路を実現する。	A. やりたいことを目標設定し実行する仕組みの構築。 B. 海外大学に関する行事を多数企画し生徒たちの参加を募る。 C. 探究部と進路部が連携し、探究学習の結果を活用した個別の進路指導をおこなう。 D. 予備校などの外部講師とも連携し進学のための学力向上を目指す。	A. 生徒及び教職員がやりたいことを目標に掲げ実行できたかどうかを評価基準とする。 B. 生徒の参加率と参加生徒の海外大学への進学希望度アンケート結果を評価基準とする。 C. 卒業時の進学アンケートにおける卒業生及び保護者の進路満足度を評価基準とする。 D. 卒業時の進学アンケートにおける卒業生及び保護者の進路実現度を評価基準とする。	A. 評価 A B. 評価 B C. 評価 B D. 評価 B	A. 中学生は年間目標の作成指標に、高校生は探究論文のテーマ設定に自分のやりたいことを盛り込むことを指標とした。教職員の評価項目にやりたいことを記入する欄を設け内的モチベーションの向上に努めた。 B. 参加率は重点目標2-Aのとおり。各学年の海外進学希望者数は中1(1人:3%)、中2(1人:2%)、中3(3人:7%)。高1(5人:14%)、高2(3人:7%)、高3(0人:0%)。鳥取SGH事業の目標である進学希望者数10%を考慮し総合的に判断し評価Bとした。 C. 5点満点の評価アンケートの結果、卒業生満足度(3.85)、保護者満足度(4.50)となり総合的に判断し評価Bとした。 D. 5点満点の評価アンケートの結果、卒業生実現度(3.29)、保護者満足度(3.40)となり総合的に判断し評価Bとした。
重点目標4に対応	ICT・図書環境	A. ICT機器の高度な利活用を全校生徒が実践できる環境作り。 B. 各授業における先進的なICT活用の実践。 C. 探究活動を支援する学校図書館の整備	A. 教員とICT委員会が中心となりICT機器利用のガイドブックなどを作成し共有を図る。 B. 各教員の取り組みのガイドブックを作成し共有する。 C. 探究に適した蔵書構成を目指し、全国図書館協会による蔵書構成比を参考にしながら、重点目標1・2・3に関連する資料を拡充する。	A. ガイドブックの作成進捗度を評価基準とする。 B. ガイドブックの作成進捗度を評価基準とする。 C. 蔵書構成比の変動及びその他資料の導入実績を評価基準とする。	A. 評価 C B. 評価 C C. 評価 B	A. モニタや大判プリンタの機器利用シーートの作成は実施したがガイドブックとして共有するところまでは至っていない。 B. 職員室内の口頭による伝達にとどまっておらずガイドブックを作成し共有するまでに至っていない。 C. 蔵書構成比に大きな変化はなかったが、図書館全体で約2000冊の図書を増やした。中でも英語・グローバルマインドの力をつけるため英語多読の本を計画的に177冊増やした。
重点目標5に対応	学校創造	A. やりたいことを行うための最低限のルールのある見える化と共有 B. FTAのワーキンググループ活動の活発化	A. 校則や生徒会規約が見える化し学校HPなどで共有する。 B. FTAから参加の呼びかけを行い活動への参加者増を狙う。	A. 全校生徒のルール理解度を評価基準とする。 B. 各家庭から年間2回の参加を目指す。	A. 評価 B B. 評価 B	A. 生徒会規約については電子化し全校生徒が閲覧できるようメール配信済み。しかし理解度調査が未実施であったため評価Bとし次年度に実施する。 B. 中学校は56%、高校は52%の家庭が年2回以上学校活動に参加した。これに学年懇親会、学園祭の参加も合わせると6割以上は参加していると考えられる。総合的に判断し評価Bとした。

評価基準 = A:ほぼ達成(8割以上) B:概ね達成(6割以上) C:変化の兆し(4割以上) D:不十分(4割未満)